



HABITAT まちづくり通信 臨時号

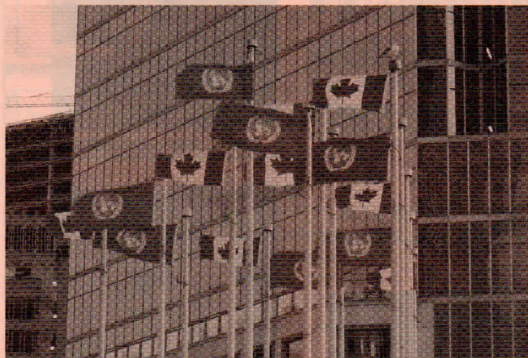


世界都市フォーラムⅢ報告

AN INTERNATIONAL UN-HABITAT EVENT ON URBAN SUSTAINABILITY

私たちの未来：持続可能な都市～観念から行動へ～

国連ハビタットが開催する「世界都市フォーラム(カナダ・バンクーバー:2006/6/19-23)」で日本ハビタット協会は、日本政府のブースの出展運営をお手伝いさせていただきました。



今回、日本ハビタット協会は、日本政府(国土交通省)のブースをお手伝いすることとなり、「環境に配慮した新しい国土計画の考え方(昨年の法律改正の内容)」、「先進的なまちづくりに取り組んでいる7都市の事例(京都市、福岡市、北九州市、飯田市、室蘭市、田原市、近江八幡市)」、「日本とハビタットとの協力関係」について、パネル・パンフレットを作成し、EXPOSITIONホールで展示活動を行いました。

世界都市フォーラムとは？

国連ハビタット世界都市フォーラムは、1996年、イスタンブール(トルコ)で開催された第2回国連人間居住会議(ハビタットⅡ)にて採択された「ハビタットアジェンダ(世界行動計画)」の実施に関する国際協力の強化を目的として、都市問題に係る経験、政策、事例等について、フォーラムの形式で意見交換を目的とした国際フォーラムです。

(資料提供: 国連ハビタット福岡事務所)

第3回世界都市フォーラムが無事終了しました。いくつかの意見交換の場に参加して、「持続可能なまちづくり」にとって最も重要なものは市民の力であるということを強く感じました。どんな立派な政策も、それを具現化する市民の力なしには絵に描いた餅に過ぎません。サイドイベントで草の根の活動を展開している女性たちが力強いネットワークを繰り広げていた光景が今も目に焼きついてます。貧困、温暖化、環境破壊、度重なる自然災害等々解決すべき課題は山積していますが、考えているだけでは何も始まりません。「観念から行動へ」行動を起こすのは私たち一人ひとりで。

国連ハビタット親善大使 / 日本ハビタット協会副会長 マリ・クリスティース



エキシビジョンホール入口の様子「ハビタットの歴史」が展示してありました。

WUF・フォトギャラリー

エキシビジョン・ホールで行われた展示会は、各国、NGO等のブースが出展され、さながら万国博覧会のようなものでした。ホール内では、毎日イベントが催され沢山の外国の方々が、連日来場されました。



竹本財務副大臣・ティハイジュカ事務局長・マリ親善大使のスリーショットです。



にわかワークショップもあちこちで開催されていました。



関係者もゲストも入口では厳重なセキュリティチェックが毎日行われました。



トーテムポールがカナダ・バンクーバー発祥ってご存知でしたか？



ジャパンブースに巨大な島出現!! この様に毎日何処かでお楽しみアトラクションも。

編集後記

4月中旬から時には深夜まで、多くの方々のご協力をいただきながら展示出展の準備をしてきた「世界都市フォーラム」が無事終了しました。準備から開催中のブース運営までご協力下さったすべての方々に心から御礼申し上げます。会議は国々の政府代表や国連スタッフ、草の根で活動続ける人々等、参加者全員がお互いに、それぞれの立場から意見を交わし、大切な地球を慈しみ、協調しながら生きていくためには何をしなければならないか話し合い、伝え合い、大変熱気を帯び充実したものとなりました。会議を通して、持続可能なまちづくりとは、環境に配慮することや、ごみを減らすといったハード面の充実のみならず、そこに住む一人ひとりが尊重され、守られ、活き活きと暮らすことのできる社会を作り出していくことが最も重要なことなのだと改めて実感しました。これからも、持続可能なまちづくりの推進に努力を続けたいと思います。(日本ハビタット協会 事務局長 山本博子)



『紛争・災害後のまちづくり』ご協力下さい

国連ハビタットは、人の幸せの基本である「まちづくり」を様々な角度から考え、世界中の人達が安心して毎日が送れるよう、居住環境をサポートしています。「人の幸せをささえる「まちづくり」」に皆様からの御協力を宜しくお願い致します。

- 郵便振替: 01790-1-107035
日本ハビタット協会・まちづくり基金口
- みずほ銀行 麹町支店 普通口座
2108468 日本ハビタット協会
- あおぞら銀行 本店 普通口座
6753952-001 特定非営利活動法人日本ハビタット協会

募金箱をお持ちの皆様

いつもご協力有難うございます。現在お手持ちの募金箱に募金がいっぱいになりましたら、是非一度、上記口座へお振込み下さいようお願い申し上げます。

habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat

ボランティアスタッフ 大募集

展示やシンポジウム、外貨コイン分け、発送作業など、事務局ボランティアを募集しています。毎月第一・第三火曜日の午後には、ボランティアデーです。是非、ご参加ください。

まちづくり・人づくりの国連機関

国連ハビタットは、都市とまちづくりの国連機関です。世界の全ての人々に適切な住まいを確保することを使命としています。国連ハビタット福岡事務所は、アジア・太平洋地域事務所としてアフガニスタン、カンボジアなど域内28ヶ国を管轄し(管轄外ですが、イラクの復興事業も担当しています)、コミュニティ主体のまちづくりや紛争・災害後のまちづくりなど様々な支援活動を行っています。特にスマトラ沖地震、津波によって甚大な被害を受けたスリランカやインドネシア等においても住宅の再建や井戸・道路・給水設備など生活インフラの復旧等数多くの復興支援、またパキスタン地震では各国際機関・NGO機関と共同で越冬シェルター支援活動も行いました。みなさまからのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

発行 特定非営利活動法人 日本ハビタット協会

(発行責任 山本博子・編集責任 佐伯恵美) 2006年7月発行

〒102-0083東京都千代田区麹町1-12ふくおか会館1階

TEL03-3512-0355 e-mail: info@habitat.or.jp http://www.habitat.or.jp

〒810-0001福岡市中央区天神1-1-1アクロス福岡福岡国連ハビタット事務所内

TEL092-724-7121 email: fukuoka@habitat.or.jp

国土交通省参加者のコメント（国土計画局参事官付専門調査官：石垣氏）



円卓会議にて：吉田国土交通大臣政務官



左より：国連ハビタット野田特別顧問・吉田国土交通大臣政務官・マリ親善大使・大木参事官



日本ブースにて：吉田国土交通大臣政務官

日本政府は、竹本財務副大臣（ハビタット議員連盟事務局長）の総会及びダイアログ参加、吉田国土交通大臣政務官の関係会議参加、深澤国土計画局計画官のダイアログ参加、展示という形で、都市フォーラムに積極的に参加を行いました。

約2,600名も日本展示ブースにきていただきましたし、円卓会議やダイアログ等も非常に盛況であったことから、日本の取組を世界に向けておおいに情報発信できたことと思っています。私たち自身も各国の取組みから良い刺激を受けました。

今後とも我が国及び世界の居住問題の解決に向けて、地方公共団体、NPO、市民の方々等、様々な主体と連携しながら、たゆまず努力していきたいと思っています。

国土交通省ホームページ
(<http://www.mlit.go.jp/index.html>)



ダイアログにて：深澤国土計画局計画官



総会にて：左より3番目 竹本財務副大臣
右端は国連ハビタット・デヴァイジュカ事務局長



総会にて：発言される竹本財務副大臣



日本ブースにて：竹本財務副大臣とマリ親善大使



＊世界都市フォーラムの歩み＊

2002年4月に、ケニアのナイロビで第1回世界都市フォーラムが開催され、以後2年毎に開催され、第2回は、2004年9月にスペインのバルセロナで開催されました。第3回世界都市フォーラムは、1976年カナダ・バンクーバーで開催された第1回国連人間居住会議から30年目にあたることから、これまでの人間居住問題の30年の歩みを振り返るとともに、「私たちの未来：持続可能な都市へ観念から行動へ」をテーマとして同市で開催されました。会期中は、円卓会議、ダイアログ、ネットワークイベント、展示(EXPOSITION)等が行われ、持続可能な都市をめざすさまざまな取組を検証すると共に、今後の課題に対する解決策を検討する意義あるものとなりました。世界都市フォーラムは、政府、地方公共団体、専門家、研究機関、民間、NGO等幅広い参加者が一堂に会し、世界の都市問題について意見交換等を行う場(今回100ヶ国以上から参加)であり、これに参加することは、世界の都市問題の状況把握、世界の都市政策関係者との意見交換・パートナーシップの構築及び我が国に対する諸外国の理解の増進等にとって非常に有益であるといえるでしょう。今回の参加者は、予想をはるかに越え、約10,000名が参加され、活発な意見交換が行われました。

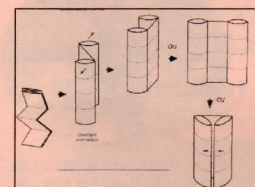
(資料提供：国連ハビタット福岡事務所)



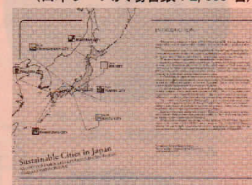
展示コンセプト～持続可能な展示～

(日本ブース入場者数：2,600名)

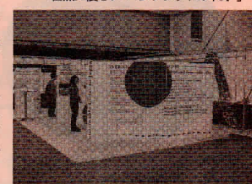
この度、日本政府ブース「日本における持続可能なまちづくり」の展示について日本政府のお手伝いをさせていただきました。展示の主な内容は、「環境に配慮した新しい国土計画の考え方」「先進的なまちづくりに取り組んでいる7都市の事例(京都市、福岡市、北九州市、飯田市、室蘭市、田原市、近江八幡市)」「日本とハビタットとの協力関係について」です。作成当初は「持続可能」と「日本」という言葉をコンセプトにおき、関係者一同、様々なアイデアが飛び交いました。その結果、「パンフレット」は、大豆インク・100%リサイクルペーパー仕様と環境面を重視し、中身のデザインに関しても日本の美学を意識したものとなりました。また、「パネル」作成も運動して、釘を一本も使用しない折りたたみ式の紙仕様で、一人でも設置・撤収できるという画期的なものになり、展示会場に足を運んでいただいた方々から褒めの言葉を頂戴しました。



「展示会場では、上記の説明パネルも展示しました」 (パンフレットご希望の方は東京事務局・担当：白川まで)



「自然に優しいパンフレットの中身」



「日本政府ブース設置の様子」

～沢山のマンパワーが発揮されました！～★スペシャルサンクスコーナー★

ハビタットフレンズ仙台のみなさま



いつもバワフルなハビタット仙台のみなさん。カナダへは自主参加という形で、守屋さん・エディータさん、二人のお子様 ちなちゃん・エマちゃん、そして安藤さんの5人で元気に参加して下さいました。「帰国後、二人のチビッコ達は、「色がきれいで、壊れない頑丈な家を作る！」と張り切っています。小さな子ども達の心の中にも、十分訴える力のあるとても充実したフォーラムで、女性と子どもに優しいハビタットの精神を実感いたしました。」(守屋さん)

ハビタットフレンズ・バンクーバー誕生



ハビタット東京メンバーのご家族でカナダに留学中の河野さんと友人の野上さん。さすがに、カナダ在住とあって色々な面でとても頼りになる存在になりました。「今回、初めてハビタットの事を知り興味を持ちました。世界中で起こっている居住に関する問題や環境問題、また、リサイクル活動などに僅かながら理解を深める機会をいただけたことを大変感謝しています。そして、このフォーラムを通して出会った人とのネットワークは私達にとって素晴らしい財産になりました。」(野上さん)

JAPAN ブースにメッセージありがとう！



展示ブース期間中、沢山のメッセージをいただきました。「日本の展示ブースはとても内容があり興味深かった」「日本は先進国で我々の国は、まだまだ発展途上で住む家もままならないのが現状ですがいつの日か日本のような取組みをできればいいなと思っています。」「ネジや釘を一本も使っていないし、とてもコンパクトに収納できる画期的な展示方法はすごい！」「日本に興味が増えました。近々、日本に行く機会があるのでとても楽しみにしています。」みなさま、ありがとうございました。

総合プロデュース・志村さん(シムラカスヒロシロ建築工房)



今回、パンフレット・パネル・ブースレイアウトと、総合プロデュースを担当していただいたのが、名古屋・愛・地球博でもお世話になったデザイナーの志村さん。短い限られた日程中、不眠不休状態で一緒に取組んでいただきました。「持続可能なまちづくり」というテーマは建築士の私にとっても課題のひとつです。重要な事は、仕組みや技術よりもむしろ人の心と力であり、まちづくりでありながら人づくりであるという事を常々感じています。こういう試みが世界各地に広がっていく事を一人の地球人として応援していきたいと思っています。」(志村さん)